彼と彼女たちの物語

ウェンディ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

彼と彼女たちの物語

【Ｎコード】

Ｎ６９８０Ｘ

【作者名】

ウェンディ

【あらすじ】

この物語は、普通の男の子と三人の少女との物語である

新しい一日の始まり

「お母さん学校へ行ってきます」

「幸一気をつけて行くのよ」

「はーい」

彼の名前は関　幸一１０才彼は1年前の夏にここ海鳴市に母親と共に引っ越してきたのだった。

「おはようなの幸一君」

幸一に声をかけて来た彼女の名前は、高町なのはだった。

「おはようなのは」

幸一がなのはに挨拶をすると満面な笑顔を幸一に見せていた。

幸一もなのはの笑顔を見て顔を紅くしていた。

そんな二人が学校に向かっていると三人の女の子が声をかけて来たのだった。

一人目は、フェイト・Ｔハラウオン彼女は幸一が転校して数ヵ月後にイギリスから転校してきた留学生なのである。

二人目は八神はやて彼女は、今まで休学していたが今年から復学するようになり学校に通っている。

三人目は、シャマルさん彼女ははやての遠い親戚にあたる女性だそうだ。今はやての家にはシャマルさん以外に二人と一匹が住んでいるそうです。

「おはようなのは幸一」

「おはようなのフェイトちゃん」

「おはようフェイト」

「おはようなのはちゃん幸一君」

「おはようはやてちゃん」

「おはようはやて」

三人は互いに挨拶を交わすと、学校の校門が見えてきた。

そして、幸一はシャマルが押していたはやての車椅子を、幸一が押し始めたのだった。

４人は学校に着くとクラス分けの表を見て、自分たちのクラスへ向かったのだった。

こうして新しい学校生活が、始まったのだった。

学校にて

幸一たちは自分たちのクラスに行くと、ほとんどの生徒が昨年と変わらないメンバーだった。

そして教室に、入った幸一たちに声をかけてきたのは、アリサ・バニングスと月村すずかの二人だった。

三人称ｓｉｄｅ

「おはようみんな」

「おはよう」

「相変わらず四人で登校するなんて」

（いいわよねなのはたちは幸一と登校できるなんて私は、したくても家が、幸一の家と方角が違うから出来ないから）

幸一たちはアリサたちと朝の挨拶をしていると、授業を開始するチャイムが鳴り幸一たちは自分の席に座り授業を受けていた。

そのころ、フェイトの義理の兄であるクロノ・ハラウオンと、義理の母親であるリンディは自宅で、先の戦い闇の書事件については時空管理局には報告していたが、クロノトリンディは、唯一つ納得で

きないことがあったのだった。

「母さんやはり僕はこの件に関しては、再検査が必要と思います彼の」

クロノは自分の意見をリンディに伝えるが、リンディはクロノの意見に対し難色をしめしていた。

しかし彼は、闇の書事件後に我々によって、彼の時間を奪ったわそれも彼の記憶を消してまで」

「それは仕方がないよ母さん彼には魔法の存在を知られるわけにはいかないのだからもし彼が魔法の存在を知ったら彼のもう一つの人格が目覚めてしまう。母さんも先の戦いで彼飲もう一つの人格がどんなことをしたのかを」

「確かにあれが無ければ、街への被害は、抑えることも出来たでしょうね」

「でもあれは仕方ないわまさか彼の父親が高次元犯罪者のスカリエッティと関わりを持っていたなんて」

そして彼の父親はスカリエッティに頼み息子にもう一人の人格を植え付け父親は彼を闇の書の近くに居させる為に昨年の夏に海鳴市に、引っ越してきたのだがその後父親は何者かにより殺されてしまい父親の思惑は費えたのと思われただが、その数ヵ月後に、闇の書事件が発生してしまった。

「そして闇の書の発動が、彼のもう一つの人格を目覚めさせてしまいこの海鳴市を消滅させる勢いで闇の書の暴走被害を拡大させてい

ったのは事実でも、今の彼はただの地球人なのよクロノ」

「そして今の彼にはもう一つの人格の記憶が無いのよ」

「それでもクロノ貴方は彼を・・・関幸一君を管理局の監視下に置くと言うの？」

「答えなさいクロノ」

「・・・はい僕は、それが最善だと思うので」

「それじゃあ母さん僕は一度護送準備のために本局に行って来ます」

そして、クロノは時空管理局に向かうのだった。

そのころ学校では、お昼休みでなのはたちは屋上でお弁当を食べながらなのは、アリサ、すずか、フェイト、はやての四人は幸一のことを話していた。

学校にて2

三人称ｓｉｄｅ

「何で？幸一君あの事件のことおぼえてないんやろ」

「そうよね私とすずかもなのはたちが魔法使いだなんて驚いたけど幸一にも驚かせたわ」

「あれには誰でも驚いたと思うよはやてちゃん。だっていきなり現れた幸一君が暴走状態の闇の書の闇を取り込んだから」

なのはたちが話していると幸一が遅れて屋上へとやって来た。

「皆遅れてごめん」

そしていつものメンバーが、揃い昼食をとっていると、なのはたちにリンディさんから緊急連絡が来たのだった。

闇の襲撃

三人称ｓｉｄｅ

「なのはさんフェイトさんはやてさん今すぐ幸一さんを連れて逃げてください」

リンディが喋り終わった瞬間なのはたちの周りに強い魔力反応が感知されたのだった。

「何々これはどういうこと？」

「なのは気をつけて何者がここに来たみたいだから」

「なのはフェイトはやて」

幸一は、三人に不安そうな表情を見せていた。

その表情を見たなのはたちは、幸一にむけこう言った。

「大丈夫だよ私たちは何があっても幸一君を守ってみせるから」

なのはがそう言い終わると謎の声が聞こえて来たのだった。

「マスターを守るのはお前たちではないそれは私たちの役目だ」

そして現れたのはなのはたちにそっくりな少女三人だった。

三人称ｓｉｄｅ　ｅｎｄ

光と闇

突如現れた三人の少女は、なのはたちにそっくりな少女たちだった。
三人称ｓｉｄｅ

「あなたたちは、一体何者なの？」

なのはが彼女たちに聞くが彼女たちは、無言のままなのはたちをおそうのだった。

「フェイトちゃんはやてちゃん大丈夫？」

「うん私たちは大丈夫だけどこのままじゃ幸一を守りながらじゃ戦うのは得策じゃないね」

はやてが言った瞬間なのはに似た少女が、なんと幸一を誘拐しようとしていた。

「助けてーー皆」

「！！しまったーー」

なのは、フェイト、はやての三人は慌てて幸一を助けようとするが、フェイトに似た事はやてに似た子たちがなのはたちの足止めをし幸一はなのはたちに似た少女たちに、誘拐されてしまったのだった。

三人称ｓｉｄｅ　ｅｎｄ

もう一つの人格の覚醒

三人称ｓｉｄｅ

「君たちは一体何者なの？」

幸一が彼女たちに聞くが、彼女たちは無言である準備を進めていた。

「そして幸一に向け三人の少女がはじめて口を開いたのだった。

「関幸一」

「貴方は今から」

「真の目覚めを果たしてもらいます」

「？？真の目覚めて何？」

幸一はわけがわからずにいた。

そして、三人の少女たちは幸一を囲むようにし、幸一に大量の魔力を放ち、幸一の体内へ注入していた。

「うわあああああ」

幸一は大量の魔力を入れられて激痛を感じながらも耐えていたが、気尾を失いかけていた。

「助けて・・・なのはちゃん」

三人称ｓｉｄｅ　ｅｎｄ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6980x/

彼と彼女たちの物語

2011年11月5日04時15分発行